

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第三十九話

「昔の学校を思うく姉去土人学校と旧節婦小学校」

(要約文)

○姉去土人学校について

昔から新冠には、多くのアイヌの人達が住んでおり、コタン（集落）を形成して恵まれた自然環境と共に生きてきました。しかし、明治五年に新冠を含む広い範囲を、軍馬や御料馬を育成する「御料牧場」として活用することに決めたため、牧場の範囲内に住んでいたアイヌの人達はたびたび、コタンを移住させられることがありました。明治時代、滑若（ナメワツカ：現泉）に古川アシンノカルというアイヌ民族がいました。明治二十九年、古川はアイヌ子弟のより良い教育を目指し、私費を投じて姉去（アネサル：現大富）に教育所を設立しました。しかし、翌年には教師が退職したことにより休校します。

その後、北海道は旧土人保護法に基づく学校を北海道各地に設立しました。新冠では、姉去と元神部（モトカンベ：現東川）に設置されることとなりました。姉去の方は、休校した古川教育所の献納を受け、明治三十六年に姉去土人学校として再び開校しました。しかし、大正五年に御料牧場経営に伴う姉去アイヌコタンの強制移住によ

り、住民と学校は平取村上貫気別へ移転させられることとなりました。そのため、姉去に学校はなくなりましたが、その歴史は平取町の貫気別小学校へ受け継がれ、現在に至っています。

○節婦小学校について

大正時代、節婦町は漁業地として栄えはじめ、次第に人口が増加していきました。節婦に学校を設立しようと地元有志の尽力により、大正十五年に日新尋常小学校（現新冠小学校）附属節婦特別教授場として認可され開校に至りました。学校があった場所は、当時の住所で新冠村大字高江村字ポソセツプ二九四番地となり、海岸付近に学校がありました。その後、昭和八年に節婦尋常小学校として独立、昭和十三年に節婦町内の高台へ移転しました。その節婦小学校も平成二十年に新冠小学校へ統廃合されました。ちなみに、最初の学校があった地点は、近年の海岸浸食により、今となってはすでに海の底になってしまったそうです。



字大富の三叉路付近には、姉去土人学校のことを刻む石碑を建立しています。

～夕暮れ時の交通事故防止～

- ドライバーは早めのライト点灯を
 - 歩行者は反射材の着用、明るい服装を
 - 道路の横断は信号機・横断歩道を利用しましょう
- 静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
9月	0件 (0件)	34件 (28件)
3年1～9月	4件 (1件)	239件 (197件)

区分	発生件数	死者	傷者
9月	1件 (0件)	0人 (0人)	2人 (0人)
3年1～9月	7件 (1件)	1人 (0人)	7人 (1人)

人のうごき

(9月末現在)

人口	5,280人	(前月比 ± 0人)
男	2,585人	(前月比 + 3人)
女	2,695人	(前月比 - 3人)
世帯	2,764世帯	(前月比 + 1世帯)